



Newsletter

三井ボランティアネットワーク事業団 Mitsui Volunteer Network Center

新年度のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団 理事長 小野寺 文敏

日頃は三井ボランティアネットワーク事業団の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。今年度のニュースレターをお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本事業団は、高齢化社会の到来を見据え、高齢者が積極的に社会活動に参加し活躍するための場を社会に提供すべく、三井グループ各社の尽力により1996年に設立されました。設立以来四半世紀以上を経過し、本年は27年目を迎えます。

シニアの生き甲斐づくり支援を目的とする本事業団は、三井グループの枠を超えた社会貢献活動へと発展・進化を遂げ、三井グループ運営会員各社(2022年度・20社)のOB・OG会員に加え、一般の方々にもご参加いただき、現在のボランティア登録会員数は、約1,500名(2023年1月末現在)となりました。

具体的な活動分野は、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育、⑤スポーツなど多岐にわたり、コロナ禍前の2019年度には年間延べ10,000名を超える会員の皆様にご参加いただいております。

しかしながら、2020年初春に発生した新型コロナウイルスの影響により、多くの活動が中止、または延期を余儀なくされました。

その後、2022年7月に発生した新型コロナ第7波では、感染者数こそ激増したものの、行動制限が緩和され、社会や経済の動きが徐々に活性化しました。それに伴い、ボランティア活動再開の動きも活発化してまいりました。

国際交流のメインとなる留学生との対面交流は、コロナ禍以降はオンラインで実施していますが、2022年秋頃からは留学生と直に対面して行うイベントが続々と再開されました。

一例として、東大柏部会では英語落語鑑賞会を、駒澤大部会では世田谷や鎌倉・江の島の散策、茶道体験会など



を開催いたしました。また、千葉大部会では東京国立博物館の見学や、留学生の日本での就職を支援するワークショップを実施いたしました。

関西支部では、神戸大で神戸旧居留地を歩く会や神戸新聞社見学会などが開催されました。また、年度を通じて司馬遼太郎記念館、キッズプラザ大阪(以上大阪府)、旧三井家下鴨別邸(京都府)などの文化施設、および大阪府済生会中津病院などで、積極的にボランティア活動を実施いたしました。

中国支部では、広島平和記念公園での清掃活動などを継続するとともに、視覚障がい者のランニング伴走など、パラスポーツのボランティア活動に着手しました。

これらの活動は、社会からも高い評価を受けております。2022年12月には、長年にわたる児童養護施設エリザベス・サンダース・ホーム(神奈川県大磯町)でのチャリティーコンサートや園内清掃などの活動に対して、神奈川県を中心に活動する「湘南倶楽部」が、神奈川県社会福祉協議会会長賞を受賞しました。

地道な活動を継続的に行ってきたことが評価され、大変うれしく感じております。

さて、本事業団の今後の課題といたしましては、①ウィズコロナ、アフターコロナの時代に即したボランティア活動への取り組み、②新規ボランティア登録会員の拡大、③運営会員会社の拡大、の3点が挙げられます。

まず、ウィズコロナ、アフターコロナという生活様式に合わせたボランティア活動のあり方について、会員会社の運営委員の皆様や会員の皆様と引き続き議論を深めてまいります。

また、定年や雇用の延長に伴い、会員の方々の高齢化が進んでおります。会員会社のOB会等での周知や、定年を迎える前の現役世代に対するキャリア研修等の機会を通じて、本事業団の認知度アップを図ってまいります。

さらに、運営会員会社の拡大につきましては、引き続き関係各位への働きかけを行ってまいります。

本事業団といたしましては、今後ともボランティア活動を通じて社会貢献に努めるとともに、三井グループのCSR活動の一翼を積極的に担い、さらなる三井ブランドの価値向上を目指す所存です。

引き続き、会員会社ならびに会員の皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

東大柏英語落語鑑賞会

東大柏部会 垣沼 裕司 (三井物産 OB)



クロアチア人のゴランさんも「寿限無」を熟演

東大柏の葉キャンパスに集う留学生、および同キャンパスのスタッフに、日本の誇る古典芸能の一つである落語を通じて日本に親しみを持ってもらおう、と当部会重鎮の宮田さん(芸名 良寛さん)属する東京英語落語かい枝会メンバーによる落語鑑賞会がコロナに負けず開催の運びとなりました。

- ・ 場所は、文化交流にふさわしい柏キャンパス図書館メディアホール。
- ・ 主催は、三井V-Net、東大柏が共催。
- ・ 時は、新型コロナ第8波襲来直前の令和4年11月18日(金)。新型コロナの中断もあり、2年間のブランクを経て今回が通算5回目。

例年と異なり、新型コロナ対策のため入場者数を定員の半分に絞るため、近隣の住民への呼びかけを控え、事前登録制としたため、主催者側はもちろんのこと、演じる東京英語落語かい枝会の皆さまも、入りが不安でしたが、52名程度の参加(事前申し込み数68名、外国籍参加者31名)を得、また、観衆も会場内に程よくばらけ、かつ、笑いもしっかり取れてホッと一息というところ。

当会の特徴は、初めて落語に出会う留学生も想定し、懇切に落語の基礎的な説明が英語でなされ、加えてユーモアを交えてエチケット説明があることでしょう。英語がわからない場合でも最悪拍手のくんだりで早速笑いをとり、心のハードルを下げてくれました。

演者も多国籍で、日本人、米国人、クロアチア人などの方々が、得意の演目(おなじみの寿限無、親の顔、転失気等)を熟演、大いに笑いをとり、ひと時を楽しく過ごせました。

例年ですと、中入り後は落語ワークショップとして落語特有の動作を来演者が会場からの飛び入り出演者を入れつつ実演するのですが、今年は新型コロナをおもんばかり割愛。来年以降の復活を期待したいものです。

2022年度 千葉大会 「ワークショップ」を3年ぶりに開催

千葉大会 岩瀬 英樹 (三井住友銀行 OB)

留学生のための就活サポートを主目的として、10年以上前から毎年開催して来たワークショップ。コロナ禍で中断していましたが3年ぶりに復活し、12月13日(火)、20日(火)の2回にわたり延べ26名の留学生が参加しました(三井V-Net メンバーは8名、延べ15名)。

*第1回目の講義内容

- ・ 「日本企業が求める留学生と就活活動のポイント」(岩瀬)
- ・ 「日本企業での就職体験」(留学生OG 張 琦さん)
- ・ 質疑応答

冒頭の定番テーマである就活の概要に次いで、今回は中国留学生OGの張さんから自身の就活体験と日本企業の職場について丁寧な説明があり、聴講者たちは先輩の経験談、特に就活の核となる「自己分析」手法について熱心に聞き入っていました。質疑では、職場での日本語力の比重とコミュニケーションの仕方などへの不安を問う真剣な声が多かったですが、自信に満ちた張さんの応答は傍らで聞いていても見事なもので、今回の講演の華となりました。

*第2回目の講義内容

- ・ 牧田雄介氏(日本製紙OB)の体験談
- ・ 留学生からの質問に対する回答、解説
- ・ グループディスカッション
- ・ アンケート

恒例となっている三井V-Net メンバーの体験談は、製紙会社の環境ビジネスモデルをPRしながら自身の歩んだ企業内活動の解説で、豊富な資料を提供して留学生たちに世界的な環境問題への関心を求めたもので、さすがに三井の力を感じさせる良い講演でした。

2番目の「留学生からの質問」に対する回答は、1回目とは異なる中国留学生OBからの書面回答となったので、見城教授が代理で応答しました。

最後は、3グループに分かれて30分以上のディスカッションでにぎわい、アンケート提出後集合写真を撮って締めくくりました。

今回は、コロナ禍での留学生の減少、日本企業の就活環境の変化などもあり、学生達の関心が低いとの懸念はありましたが、ふたを開けてみると熱心な聴講者が集まり活発な質疑が交わされました。われわれ三井V-Netのサポート体制も3年ぶりで、さびついたワークショップにならないかと不安がありましたが、従来にまさる手応えを残せました。



第1回目の集合写真

茶道体験会開催報告

駒澤大部会 小島 賢治 (三井物産 OB)

当日(2022年11月19日)は天候に恵まれ、駒澤大学深沢キャンパス内にある日本館に6人の留学生が参加してくれました(台湾1名、韓国2名、フランス2名、フィンランド1名)。

10時半からまずは隣接する離れの「而今庵」を見学しました。このお茶室は三畳台目の典型的な利休様式です。

最初に飛び石の説明から。欧州のシンメトリーな造園に比べ、日本では意図的にランダムに配置します。例えば踏み石も同様で、ふぞろいゆえ下を見て注意しながら歩かざるを得ません。そして茶室のそばに来て初めて目を上げ前を見ると画面がパッと開けます。これが日本の美意識なのです、といった説明をしてから、躡り口より茶室の中へ。

茶は奈良時代に中国から伝来しますが、最初は薬用でした。その後、室町時代に入り、村田珠光、武野紹鷗を経て、千利休により茶道として体系化されます。いわゆる「わびさび」の世界です。その典型がこの茶室です。質素な土壁、竹の骨組みと天井。そして茶道は、お茶を飲む作法ばかりでなく、茶碗、掛け軸、生け花などのトータルなセッティングによる最大限のおもてなしの表現世界なのです、と解説。これが済むと、大広間に戻り、茶道具の説明に。とくに熱が入ったのが茶杓です。すべて私の自作品なので自然と解説にも力が入ってしまいました。

さて、11時15分からは薄茶をたてる体験教室です。見よう見まねで各自頑張りました。おいしかったとのことで全員2度目に挑戦。今度は皆さんちょっと上手になってカプチーノ的な泡立ちになりました。参加会員から菓子皿やお茶菓子(干菓子)の差し入れもあり、ぜいたくな薄茶体験ができました。

最後のアトラクションとして、やはり会員のご手配で、「投扇興」と「貝合わせ」など、日本の遊びも体験しました。われわれも初体験のことで場が大変盛り上がりしました。

ということで予定した12時になり、無事終了となりました。留学生たちもさぞかし喜んでくれたと思います。

会員の皆さんには道具の拝借など大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



茶道体験風景

新たな交流を始めて

横浜国大部会 和田 龍雅 (三井物産 OB)



筆者と留学生

新型コロナの感染拡大によって横浜国大部会の活動も大きく制限されていましたが、第7波のピークを過ぎて規制も緩和され留学生の受け入れも増え始めました。

私もベネチア大学からの留学生、ヨハンさんとの交流を11月から始めました。もう一人インドネシアの修士課程の学生とも昨年より交流があるのですが、残念ながらコロナ感染への警戒と学業の都合から同学生とは対面の交流がかなわずメールのみの交流となっています。

ヨハンさんはベネチア大学では美術史を専攻しており、禅文化に興味があるとのことで、10月に来日してからすでに鎌倉も訪問した由。ついては一緒に横浜市金沢区の称名寺、金沢文庫、龍華寺を見学してきました。NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」のおかげで参拝者も増えて多忙の中、龍華寺では住職、名誉住職のお二人に案内いただきました。

金沢文庫では「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」の展示会が開催中でヨハンさんも大いに興味をそられたようです。

また別の機会では三井V-Net事務局の紹介で国立能楽堂での能・狂言の公演があり、ヨハンさんも興味ありかつ特別価格でのチケット提供ということで観劇してきました。遅いテンポの芸術表現をどう受け取るか心配したのですが、イタリアのオペラと共感するものがあるとのことでそれなりに楽しんでくれたようです。

これらの交流は、コロナの感染がなければ部会のグループイベントとして留学生同士の交流の場ともなるものであり、真にコロナ禍が明けて通常の活動に戻ることを期待しています。

神奈川県社会福祉協議会 会長表彰を受けて

湘南倶楽部 世話人一同

このたび「三井V-Net 湘南倶楽部」は、エリザベス・サンダース・ホーム(以下ESH)での長年の清掃・自転車修理はじめ、各種ボランティア活動が評価され「神奈川県社会福祉協議会」より会長表彰を受賞いたしました。

これも2000年(平成12年)8月、ボランティア活動開始



人と人のまんなかに。

以来、東芝エレベータ神奈川支社の若手の皆様、相模原市の旭商会さんのご支援をいただきながら、会員の皆様が22年間継承された献身的な活動の賜物と思えます。

表彰状の授与式は2022年12月10日の園内清掃の折にESH内にて執り行われました。この受賞の喜びを皆様とありがたくかみしめるとともに、今後の活動の励みにしたいと思えます。

今回の表彰を受け、ESH 宮崎理事長より受賞のお祝いメッセージをいただきましたのでご紹介いたします。



授与式の様子

『表彰お祝いメッセージ』

社会福祉法人 エリザベス・サンダース・ホーム

理事長 宮崎 道忠

このたび、三井ボランティアネットワーク事業団・湘南倶楽部の皆様方によって長期にわたるお働き・ご援助に対し、神奈川県社会福祉協議会から表彰されましたことを心からお祝い申し上げます。

私たちは、22年前から三井V-Netの方々による清掃活動や自転車修理、さらにチャリティコンサート開催など心のこもったご奉仕をたくさんいただいております。

当時幼児であった子どもたちはすでに成人し、そのことを思えば本当に長い間のご奉仕であり、改めまして深く感謝を申し上げます。

実は、いつも不思議に思うことなのですが、当ホームの創立者とこの土地は三菱の岩崎家との関りがとても強いのです。

しかし、この施設の名称は三井十一家の一つである三井高国氏の育ての親といってもよいエリザベス・サンダースさんのお名前をいただいているのです。

この不思議な取りあわせは、神様の見えざる手によってとしか思えないのです。

大磯のこの地において、三井と三菱はその崇高な理念の中に統合されたのだといえるでしょう。ですから三井V-Netの皆様方がこの地にお越しになれる時、たとえここが「岩崎山」であってもサンダースさんとともに三井高国氏が天国からほほえんで下さっておられるのではないのでしょうか。私はいつもそう感じております。

これからも、皆様方のご理解・ご支援を賜りながら私たちは当法人が設置する児童養護施設、認定こども園および澤田美喜記念館のより良き運営に努めてまいります。

三井ボランティアネットワーク事業団・湘南倶楽部の皆様方の表彰を心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

関西支部

コロナ禍で留学生と街を歩く

神戸大学 グローバル教育センター長
教授 河合 成雄



筆者

アフターコロナという言葉を経験してきたでしょうか。パンデミックの始まった当初はそれなりに新型コロナウイルス感染症が終息した世界がそのうちにやってきて、たとえ完全にはなくとも日常に戻るのにはそんなに遠い将来ではないだろうと漠然と考えていました。

そんな中、ようやく神戸大学では留学生向けの日本語の授業が2022年10月より久しぶりに対面で再開され、グローバル教育センターの建物も活気づいてきたところでは。とはいえ、館内でマスクをしていない人はなく、まだまだ行動の制限を感じる日々といって良いのでしょうか。

ところで、コロナでの制限を余儀なくされた時に、三井V-Netの方々が最大限の工夫をして留学生との交流を対面で実現されていた事例を紹介しましょう。

例えばコロナ禍の真ただ中に、阪神淡路大震災の記念碑が集まる神戸市の東遊園地から旧居留地への街歩きの実施をしていただきました。しかもそれは安全な距離を保つために無線ガイドシステムを用いて各自がトランシーバーを持つという工夫の中でした。

また防災という観点からの催しものもいくつか行っていたいただきましたが、本来、防災は必要な知識の獲得のみならず、普段からの人間関係が災害時に役立つものであるため、対面での催しものは非常に貴重であり意義があったといえるでしょう。

本学が留学生の地域との交流を積極的に進めてきた中で、コロナ禍での貴事業団関西支部との交流は今後に向けて一つの財産になったと感じています。

神戸市在住の留学生と 情報発信に理解深める 「神戸新聞社本社見学会」開催

関西支部事務局

2022年11月15日(火) 留学生を対象とした「神戸新聞社本社見学会」を開催しました。

参加者は、留学生7名、三井V-Net 会員4名、事務局2名、神戸大学の先生1名の計14名で、日本の企業や社会を学ぶ活動の一環として行われました。

神戸新聞社訪問に際しては、参加者全員に新型コロナウイルス感染対策のためのマスクの着用、受付では検温と消毒に協力していただき、無線ガイドシステムを利用して、ソーシャルディスタンスの確保、説明時の飛沫防止を図りました。

神戸新聞社内はガラス越しの見学となりましたが、それを補う動画やパソコン画像で詳しい説明を受けることができました。



集合写真

はじめに、「神戸新聞ができるまで」のビデオ視聴。その中では、編集局フロアでは各部署に仕切りがなく、情報を共有しながら紙面を組み上げる工夫などを学びました。

また、報道展示室では阪神・淡路大震災直後の報道について耳を傾けました。当初の被害の大きさを伝える記事ばかりから、希望が持てる記事へと変わり、避難所生活情報を増やすなどで被災者を勇気づける記事を発信したことなどから、現在も続けている防災を啓発する報道の説明にも関心を寄せました。

参加した留学生からは、「企業の皆さんが時間を守りながら思いを持って仕事されている様子が伝わってきた」との感想があり、記者になる希望を持った留学生にとっては大変参考になったようです。

今回の見学では、神戸と震災、あるいは災害と新聞記者という観点でも学びが得られ、留学生にとっては日本社会への理解を深める成果が得られたと思います。



ビデオ視聴風景

「乳児院へあかりのおうちを届けよう活動」～手作りあかり製作会に参加して～

しゃりよう かおり
社 領 香里 (登録会員)



前方左端が照明塾 橋田先生、左から3人目が筆者

はじめて手作りのあかりを見た時、作品の愛らしさと温かな光に心がほっこりしたのを覚えています。一緒に見ていた初対面の方とも自然と笑顔で会話が弾み、人の心を柔らかくするあかりの力を改めて感じました。

2023年大阪乳児院の移転に伴い、新しい施設に手作りのあかりをおうちの形をしたフレームに飾ってお届けします。季節や行事によって、飾るあかりを取り替えることもできます。

あかりの製作工程は、針金を曲げはんだ付けをして枠を作り、それに和紙を貼って、最後にライトを付けます。工程は同じなのですが、作る人によって個性溢れる愛嬌いっぱいの作品が生まれます。私もはんだ付けは初体験でしたが、講師の橋田先生にサポートしていただきながら楽しんで自分の想いを表現できた良い時間でした。子どもたちや職員の方が、あかりを見て笑顔でお話してくれたら嬉しいです。



製作中の筆者(左)とその作品

乳児院とは、さまざまな事情により、家庭で暮らすことができなくなった0歳から2歳までの赤ちゃんや子どもたちが暮らす施設です。

ボランティア研修を経て、絵本の読み聞かせ、赤ちゃんの抱っこ、ミルク介助など、子どもたちの中に入って一緒に過ごしていました。

コロナ禍では、乳児院のボランティア活動は子どもたちと直接触れ合うことが難しくなっていますが、今はフェルト絵本やあかりを作って届けたりとウィズコロナの活動を行っています。

これからも、子どもたちと職員の方に喜んでもらえるような、そしてボランティアの私たちも楽しくワクワクするような活動ができれば素敵だなと思います。



第10回神戸マラソン2022に 団体ボランティアにて参加して

関西支部事務局



給水準備風景

2022年11月20日(日)当日の朝6時頃まで降っていた雨も上がり、曇り空のもと、私たち三井V-Net17名は、7時30分に高速長田駅出口付近に集合しました。

今年で第10回大会を迎え、「ありがとう」を、未来へつなごう”をキャッチフレーズに、約2万人のランナーが、午前9時、神戸市役所前をスタートしました。

ポートアイランドのゴールを目指してそれぞれコロナ禍で中断していた3年間の思いを胸に一団となって神戸の街を駆け抜けました。

われわれ三井V-Netグループの活動は、スタートから5.1km地点での給水です。8時に到着したトラックから降ろされたテーブル、水、紙コップ等の備品を所定の場所に並べる作業が約40分間、続いてコロナ感染症対策として、各自マスクとフェースシールド、ビニール手袋を装着して、紙コップに約半分の量の水を入れ、テーブル上にランナーが取りやすいように3段に並べてランナーの到着を待ちました。

パトカーに先導された広報車が、「間もなく先頭ランナーが到着します。皆さんの温かい声援により大会を盛り上げてください」とアナウンスしながら通り過ぎると、先頭集団のランナーが到着しましたが、上位を走るランナー達は給水場には目もくれず走り抜けていきました。

やがてコース上は虹がかかったような景色に変わりました。青・黒・赤・ピンク等のウェアを着たランナーの流れは延々と続きました。珍しいファッションもあり、「行ってらっしゃい!」「頑張ってください!」と応援しつつ、給水を続けました。ランナーの多くは「ありがとう!」の一言を残して走り去りました。

『団体ボランティアに参加された会員お二人の感想を紹介します』

*このボランティアで、走ることを純粋に楽しんでいるランナーを間近に応援できて、大勢のスタッフとともにこの

イベントを盛り上げるという一体感を得ることができました。楽しい時間を共有でき、大会が無事に終わって本当に良かったです。

*マラソンに参加されている方、とても優しくやりがいを感じました。ランナーの方からたくさんの言葉「お水ありがとう」「この水魔法の水」「ボランティア、ご苦労さん」などとても癒やされました。また、来年も参加してみようと思っています。



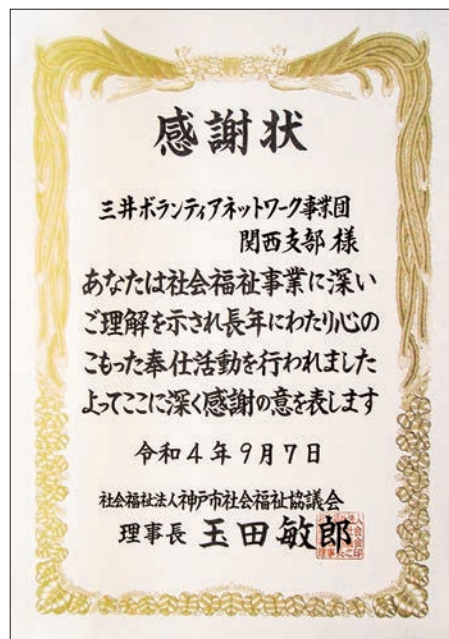
集合写真

神戸市社会福祉協議会理事長より 感謝状を授与される

関西支部事務局

2022年9月に開催予定であった令和4年度神戸市社会福祉大会は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス拡大防止の観点から中止となりましたが、長年にわたる神戸市内での神戸大学留学生支援、人と防災未来センター・兵庫県立美術館・神戸市立博物館・神戸大学医学部附属病院・神戸マラソンでのボランティア、ならびに須磨海岸清掃などの社会福祉活動への協力に対し、三井V-Net 関西支部が神戸市社会福祉協議会理事長より感謝状をいただきました。

ボランティア会員の皆さまの社会福祉活動に対するご理解とご協力にあらためて感謝申し上げます。





中国支部

三井V-Netのボランティア活動に参加して

松浦 優子 (エムエム建材西日本 現役社員)

私が初めて参加させていただいたのは、毎年1月に開催される天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝(ひろしま男子駅伝)のボランティアでした。元々スポーツが好きなお仕事もあり、自分が興味のあるイベントで少しでも力になることができると参加したのがきっかけです。当日は初めてのことで戸惑いもありましたが、無事沿道整理の活動を終え、大変充実した気分での帰路についたことを覚えています。

その後、三井V-Netでは他にもさまざまな活動に取り組まれていることを知り、月に一度の平和記念公園の清掃や、視覚障がい者ランニング練習会での伴走支援、オペラ公演の会場運営などの活動に参加させていただきました。平和公園での清掃活動中には、公園を訪れている方から感謝の言葉をかけていただくこともあり、より力が入ります。

いずれの活動も、普段の仕事や生活では知り得ない視点から物事を見ることができ、新たな人との出会いから多くの刺激を受けています。今後も自身の見識を広めつつ、微力ながら地域社会に貢献していけたらと考えています。



オペラ公演ボランティア 右から3人目が筆者

県立広島病院ボランティアを始めました

津郷 千恵 (三井物産 OG)

私は、子育て関係で何か活動ができないかなあと思いつき、香川県主催の子育てホームヘルパーの講座を2004年(平成16年)3月に受講し終了しました。それから少しのちに高松市の子育て支援の講座を受講したのですが、最後まで受講しないで終わりました。しかし子育てホームヘルパーとして子育てのお手伝いはできることになっています。

子育ても終わって20年前には、イギリス留学してナニー(注)になりたいと思ったこともありましたが、でも、もう体力がありません。もう少し早く気づいていれば良かったのと思うこの頃です。

現在は、ボランティア活動(病院)が私の勉強です。いろいろな方の力を借りて県立広島病院のボランティアに2022年10月28日から活動することとなりました。初日は、病院内の患者総合支援センター副センター長より丁寧な病院内

の概略および診療科について、同行していただいた泉尾さん(三井V-Net中国支部)と説明を受けました。

当日の院内は大勢の患者でいっぱいのところ、ボランティア3~4名が活動していました。私は、自動支払機での支払操作の援助をしました。多少の不安もありましたが先輩ボランティアに教えてもらい無事活動を終えることができました。ボランティア活動中にドクターヘリが来て病院内がピリピリした雰囲気になったことは、初めて見る光景でハラハラする瞬間でした。

県立広島病院の皆さまに受け入れていただき、ありがとうございました。

(注) ナニー(nanny): とくにイギリスで子供をあずかり面倒をみるベビーシッターの1形態であり、育児・勉強・情操教育などの専門知識をもって世話をする人、あるいはその仕事のこと。



ボランティア活動中の筆者

パラスポーツのボランティアに参加しています

中国支部事務局

中国支部では2022年度よりウィズコロナ、アフターコロナの活動として、パラスポーツのボランティアに参加し、2022年4月から視覚障がい者ランニング練習会の伴走者として参加しています。視覚障がい者は伴走者がいなければ走ることができません。この活動の輪が広がれば走りたい視覚障がい者が増えるのではと考えています。

2022年はパラスポーツの世界大会や世界大会予選会が広島で開催されました。「2022ハンザクラスアジアパシフィックチャンピオンシップ&パラワールドセーリングチャンピオンシップハンザクラス広島」と「2022年第8回スペシャルオリックス日本夏季ナショナルゲーム・広島」でボランティア参加しました。これらの大会は日本では認知度が低いため、このような活動に積極的に参加して皆さまへ紹介することで、パラスポーツのボランティアを広めていきたいと思っています。



伴走中の三井V-Net会員の原田さん(右端)



人と人のまんなかに。

事務局便り

2022年度「三井 V-Net」名義による ダルニー奨学金への支援報告

事務局

日頃より未使用切手および日本郵政製書き損じはがきのご提供につきましては、会員のみならず多くの皆さまより多大なるご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

おかげさまで、2021年中にご提供いただいた上記原資物品の換金額合計は80,789円にもなり、5口分の奨学金としてタイの中学生ひとりの入学から卒業までの3年分の支援、およびふたりの中学生の1年分の支援に充てることができました。現地の学生に代わりまして、皆さまからの温かいお気持ちに厚く御礼申し上げます。

三井V-Netは設立当初より公益財団法人国際センターにて展開している国際教育里親型支援「ダルニー奨学金」を介して東南アジア僻地にて経済的に恵まれない子ども

たちに基礎教育の機会を授けるための支援を続けてまいりました。

引き続き、会員の皆さま、運営会員会社の部署単位や各社OB会の皆さま、そして三井V-Netの活動を知っていただいたその他多くの皆さまのご理解のもと、変わらぬご協力を心よりお願い申し上げます。

2022年度に2年生に進級した学生。卒業までの学費は確保されています。



編集責任者：西本 宏永

物品ご提供による支援のお願い

三井V-Netでは右記の物品を随時収集しております。ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し、東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほか、インド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として役立てております。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもぜひお声がけ願います。

ご協力を心よりお待ちしております。

ご提供いただきたい物品

- 日本郵便製未使用（書き損じ含む）はがき
- 日本郵便製未使用切手（海外切手は不可）
- 使用済み切手
（周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います）
- プリペイドカード（未使用のみ）

ご提供品
送付先

三井ボランティアネットワーク事業団
の本部もしくは各支部あて
(本ページの下住所、電話番号をご覧ください)

皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

参加いただけるボランティア活動

詳しくは三井 V-Net ホームページをご覧ください。入会ご希望の方もホームページ
(<https://www.mv-net.com/>) よりご登録をお願いいたします。

三井ボランティア

検索



三井ボランティア
ネットワーク
事業団

本部(東京)

〒107-0052
東京都港区赤坂3-11-3
赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181
FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪)

〒556-0011
大阪市浪速区難波中1-12-5
難波室町ビル3階
TEL:06-4396-8680
FAX:06-4396-8681

中国支部(広島)

〒730-0017
広島市中区鉄砲町6-7
中川ビル5階
TEL:082-222-5101
FAX:082-222-5101